

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名	双子川浄苑維持管理事業					②事業番号	3212
③事業類型	4. 施設等維持管理事業			④開始年度	昭和 39 年度	⑤終了予定年度	年度 ○ 設定なし
⑥根拠法令等	○ 法令	条例	規則	要綱	計画等	その他	法令等の名称: 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
⑦実施手法	直営	○ 全部委託	一部委託	補助・負担	その他		
⑧関連予算科目コード	款	4	項	2	目	3	細目 3
⑨担当部名	市民生活環境部			⑩担当課名	環境整備課		会計 一般会計

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
①し尿処理施設を管理する運転管理業者	①業者	業者
②汲取及び浄化槽人口	②汲取及び浄化槽人口	人
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
設備の計画的な更新・修繕・点検を行ったり、運転維持管理を業者に委託し、監督指導することにより、し尿の適切な処理を行う。	①し尿及び浄化槽汚泥の処理量	kl
	②	
	③	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
施設の安全かつ適正な運転業務を行う。	①処理率	%
	計算式 $(\text{処理量} \div \text{受入量}) \times 100$	
	②計算式	
	③計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
施設が安全かつ適正な運転業務を行うことにより、効率的な運転と適切な維持管理を行う。	政策(章)	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち
	施策大(節)	3 日常生活や事業活動などにおいてすべての市民・事業者が資源・エネルギーの利用などに配慮し、環境に負荷をかけないまちをめざします
	施策中	1 資源・エネルギー有効利用の推進
	施策小	3 ごみ廃棄物の適正処理

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	業者	業者	1	1	1	1	1	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標②	汲取及び浄化槽人口	人	29,822	28,818	28,768	28,768	28,768	
活動指標①	し尿及び浄化槽汚泥の処理量	kl	23,021	22,729	23,287	23,287	23,287	
活動指標②								—
活動指標③								
成果指標①	処理率	%	100	100	100	100		
成果指標②								事業費などの推移における特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.22	0.22	0.22	0.22		
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
事業費	人件費(投入人員*単価)	千円	1,767	1,767	1,784	1,784		—
	直接事業費	千円	147,735	128,415	125,640	119,196		
	総事業費	千円	149,502	130,182	127,424	120,980		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	39	39	39	39		
	一般財源	千円	149,463	130,143	127,385	120,941		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	廃棄物(し尿及び浄化槽汚泥)の適正な処理を行うためにし尿処理施設を整備した。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等関係法令の厳格化により、より一層の安全かつ適正な処理が求められている。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	安全かつ適正な運転により、廃棄物の適正な処理につながる。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	廃棄物の適正な処理は市の責務である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	運転管理委託に関しては設計を行い、適正な価格で管理してもらっている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	廃棄物の適正な処理は市の責務であり、休止・廃止すれば適正な処理ができなくなる。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	廃棄物の適正な処理に資している。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	—
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	運転管理委託に関しては設計を行い、適正な価格で管理してもらっている。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	—

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	廃棄物の適正な処理と排水処理を行ってもらい、一層の公害防止に資することが望まれる。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など	—	
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—	